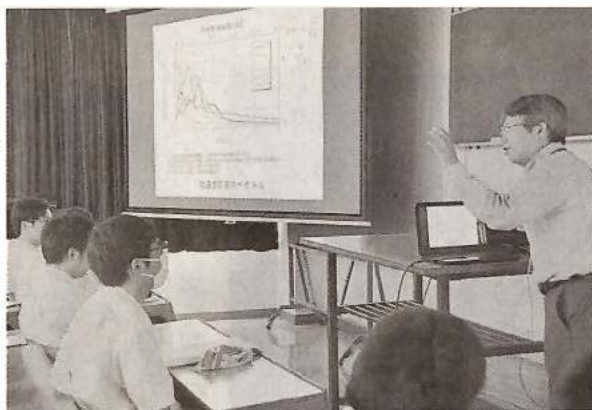


熊本地震テーマに崇城大講演会

揺れへの備え 理解深め

高校生 耐震建築学ぶ



崇城大の黒木正幸准教授（右）の耐震建築をテーマにした講演に聞き入る高校生たち

乗りかかるように崩れた建物の写真を例示。「こうした被害は、耐震補強をしておけば防ぐことができる」と強調し、防災意識の大切さを訴えた。

真和高（熊本市中央区）物理部の児玉虎太郎さん（18）は「日頃学んでいる物理の法則が地震の揺れの構造と関係し、自分の暮らしとつながっていることを実感できた」と話した。

（国崎万智）

崇城大工学部建築学科（熊本市西区）はこのほど、高校生を対象に「熊本地震と耐震建築」と題する講演会を同大で開いた。熊本地震で大きな被害が出た益城町などで建物被害を調査した黒木正幸准教授（耐震工学）が、被害の特徴などを解説。約100人の高校生たちが、自分たちの経験し

た地震や揺れへの備えについて理解を深めた。

黒木准教授は、プレート

の沈み込みにより発生する地震に比べ、熊本地震のよ

うな活断層型は予測が極め

て難しいことなど、地震の

メカニズムを説明した。熊

本地震に特徴的な被害とし

て、1階部分の車庫がつぶ

れ、2階部分が車の屋根に

豊かに
文化・教育
学ぼう